



敷地：東京都八王子市上恩方町上案下地区
 用途：ゲストハウス
 模型：模型 1/30 敷地模型 1/500



「かいこ」

かいこ 蚕 養蚕業、養蚕農家、採光・通風

かいこ 懐古 昔懐かしい風景、古民家、田舎

かいこ(う) 開口 障子、襖、欄間、檜出しの高窓
 緩やかに区切られる空間

1 背景



日本の文明開化には絹産業が大きく貢献している。それに付随して絹の原料である繭を育てる**養蚕業**も栄えた。東京・八王子周辺では養蚕業が盛んに行われ、農民の生活の中心を養蚕業が占めるようになった。その過程で養蚕業を行う最適な環境を整えるため、民家の**形態が変化**していった。

2 敷地：八王子市上恩方町上案下地区



周辺地図 (Google マップを参照)

JR 高尾駅からバスに 40 分乗って終点のバス停『陣馬高原下』の周辺地域である。近隣の**陣馬高原**への登山口となっており、平日・土日問わず大勢の**登山客・サイクリング客**が地区に訪れる。

3 周辺風景



周辺地図

四方を山に囲まれた谷間の集落であり、地区内には川(沢)が2本流れている。かつて養蚕を営んでいたと考えられる民家(養蚕民家)が多数ある。都内で養蚕民家が集まって残されている場所はほとんどなく、貴重な集落であると言える。



バス停周辺の風景



養蚕農家と石垣

4 問題提起

①改修手法



一般的な改修工事では、壁を追加して**耐震性・機密性**を向上させる操作がなされる。壁で空間を区切ることで近代のnLDKの間取りに変化させることもできる。しかし壁を挿入することで、採光や通風が疎外され、従来の農家建築の特徴が**損なわれてしまう**。

②過疎化

養蚕で栄えた八王子のほとんどは都市化が進んだ一方、上案下にはかつての八王子を想起させるような風景が残っている。しかし八王子の東部に機能が集約されたことで西部は徐々に衰退していき、**過疎化**が進行している。かつての主業であった林業や農業、リンゴの生産等の**生業は衰退**している。

5 コンセプト

- ・現存する養蚕農家を**ゲストハウス**に改修
→集落に来る登山客を対象にする
- ・住民と登山客をつなぐ**機能**を追加する
→1階の畳の間、2階の共同リビングを住民にも開放し、居間、作業空間として利用してもらう。
- ・建物の間取り、特徴を**生かした改修**をする
→建物の間取りを生かして障子や欄間をそのまま残す。不足する耐震性能はバックヤード、増築部にて補う。

上案下に現存するY邸を対象にリノベーションを行い、**新たな養蚕民家の利用方法**を提案する。

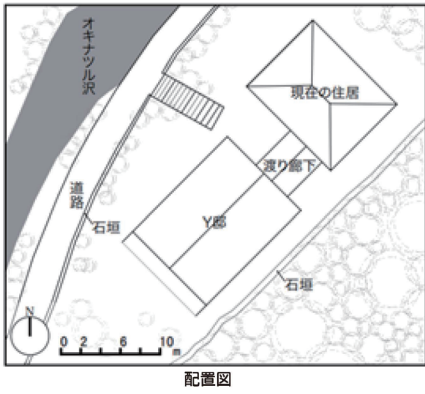


建物外観

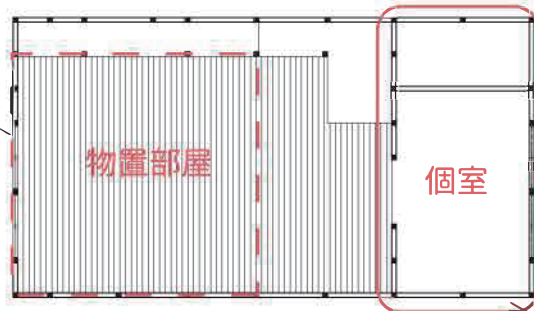


玄関風景

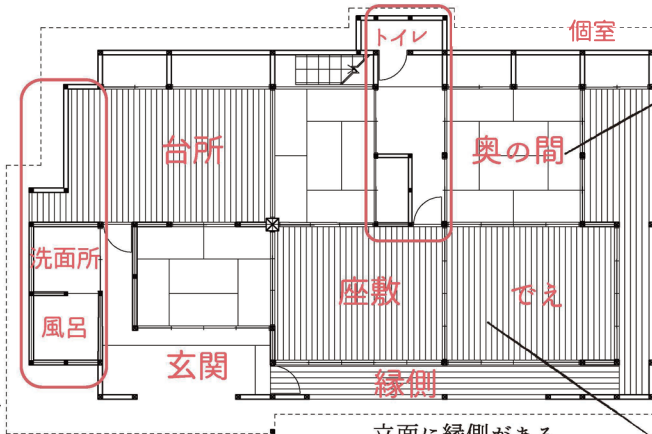
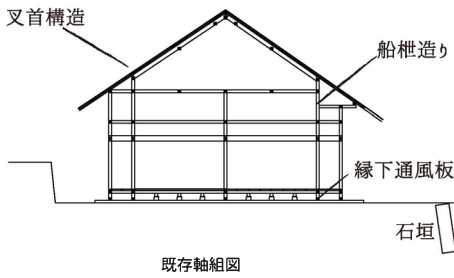
6 対象建物



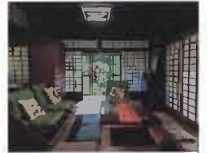
かつては吹き抜けだった



生活スタイルの変化に伴い、個室にした



床の間や飾り棚があり、最も格が高い部屋である

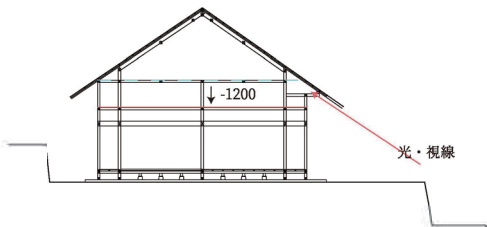


障子や欄間で部屋がゆるやかに区切られる

7 設計手法

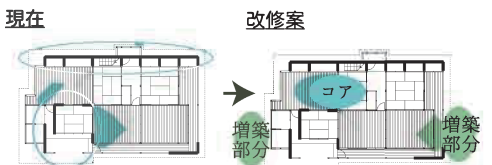
①断面の改修

2階床レベルを天井裏のレベルまで下げる。
小屋裏空間に立面から光を入れる



②平面の改修

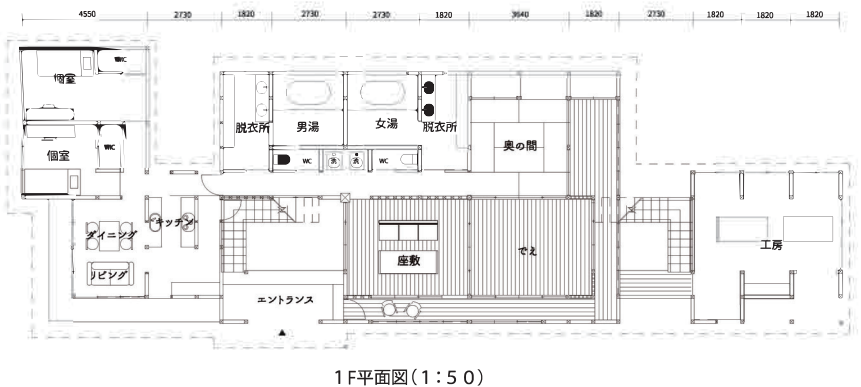
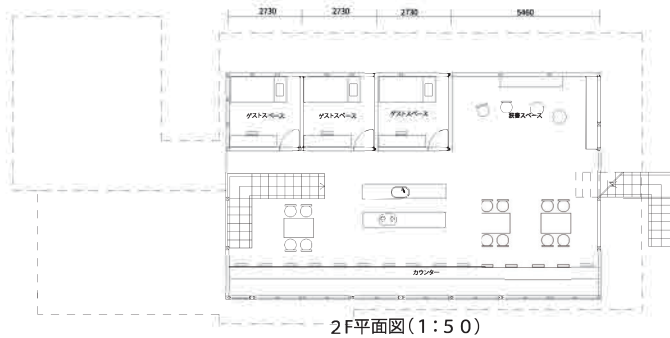
不足する壁を増築部分で補い、既存建物の立面には大きな変更を行わない。



壁量が不足している
& 偏りがある

裏の部分にコアを設け、
剛心を中心にするために
増築部分で調整を行う。

8 平面図



9 模型写真

